



の利便性を実感していただけるよう呼び掛けていきたいと考えています。ご協力いただきますようよろしく願います。

ダイオキシン全国調査の

重点地区に

国はこのたび「ダイオキシンに関する五か年計画」を定め、そのひとつとして大気・土壌・水などを対象に全国的規模で総合的な調査を実施することになっています。特に、計画の初年度である今年

度は、全国四百か所に測定地点を設定して「ダイオキシン類緊急全国一斉調査」を行うこととしており、その中の重点地区二十か所のひとつとして、大館市が選定されました。

この選定にあたっては、県から広城市町村圏組合を通じて打診がありましたことから、本市が立候補していたものです。

調査の時期は、八月下旬から九月下旬までの約一か月間で、調査は、大気・降下ばいじん調査を三地点で、水質・底質・水生物調査を二地点で、土壌調査を九地点で、地下水調査を二地点でそれぞれ実施し、集計後に環境庁から全国の調査地点の数値が個別に公表されることになっています。

市民の皆様の不安を取り除くためにも、このような国が行う調査などの情報を収集し、活用していきたいと考えています。また、今年度中には再度、大館広域第一環境センターのダイオキシン類排出濃度の測定も実施する予定です。いずれにしましても、今後とも焼却炉の燃焼管理の徹底を図りながら、ダイオキシン類の一層の排出抑制に努めていきたいと考えていますので、よろしくご理解をいただきますと思います。



農作物の生育状況

気象情報に注意

八月二十五日現在の水稲生育は、茎の長さは平年並みからやや短め、一つの穂についているもみの数もやや少ない状況にあります。しかし、いもち病をはじめとした病害虫の発生は平年より少ない状況になっています。

また、穂が形成される時期に最低気温が低かったことから、あきたこまちの中にほんの少し、白くなつて途中で落下してしまう奇形もみが発生していますが、作柄には影響がないものと推測されます。作柄の予測は、単位面積当たりのもみの数はやや少ないものの、登熟期の気象が平年並みに経過して登熟歩合と千粒重が低下しなければ平年並みの作柄が期待できます。

野菜は、梅雨入りが早く長引いたことから、多雨、日照不足の影響が出ています。本市の主要出荷品目である山の芋は平年並みに近づいていますが、ネギについては減収が予想されます。

果樹は、開花時期が平年よりも二週間ほど早まり、収穫期も早まりそうですが、リンゴとナシについてはその後の生育が順調に推移し、昨年並みの収穫量が予想されています。

今後、気象変動が予想されることから気象情報を的確に把握し、各関係機関と連携を密にしながら、きめ細かな指導を徹底していきたいと思えます。

そのほかの行政報告

- ◇財務会計システムの進捗状況
- ◇あきた北空港圏域観光キャンペーン
- ◇皇太子殿下の本市への行啓
- ◇ファイリングシステムの導入
- ◇平和祈念・戦没者慰霊式
- ◇北部老人福祉総合エリア(仮称) 工事の進捗状況等
- ◇'98大館大文字まつり
- ◇花岡住宅地区改良事業
- ◇大館樹海ドーム誕生祭2
- ◇上川沿小学校改築事業
- ◇公共事業の発注及び進捗状況